

自然科学書協会主催の研修会が二月七日

(木) 一六時半から日本出版会館四階会議室にて開催された。株式会社図書館流通センター(以下、TRC) 仕入部部長の池田和哉氏を講師としてお迎えし、「図書館流通を知ろう!」と題して行われ、三三社、五七名が参加した。

冒頭、簡単な自己紹介に続き、大きく分けて次の四つについて説明があった。

① TRCの業務内容

TRCは取次会社と勘違いされるが、図書館の通販を行っている書店である。それも図書だけでなく図書のデータ(MARC)も販売している。そのため、業務内容は図書の装備作業とデータ作成である。

装備作業とは分類などが記入されているラベルを背に貼ったり、フィルムコートで覆ったりする作業のことである。一方、データ作成はMARCが最大三〇〇項目と多岐にわたっているため、仕入れた図書をもとに作成することが鉄の掟で、他からのデータを流用することはしていない。そのデータをもとにカタログ(週刊新刊全点案内)を週に一回発行し図書館に配布をしている。

なお、指定管理者制度により図書館の運営も行っており、全国で約五〇〇館にもほり、現在では売り上げが一番多くなっている。

② 図書館における発注から納品まで

・新刊図書について

・カタログをもとに図書館が発注を行う。

迅速(最短で五日)に納品をするため、類書の実績などをもとに指定配本で版元に発

注をし、カタログ掲載の六割を二〇週間に庫している(ストック・ブック)。

・既刊図書について

週刊新刊全点案内に図書館で企画展示やフェアなどに活用できるDMを同封し、企画を提案している。とくにグループ会社がbkiを始めた二〇〇年ごろに倉庫を大きくし、在庫が多くなったため既刊図書販売に力を入れるようになった。このDMは企画提案のような内容だけでなく、高価本に対しても行っている。近刊情報から公共図書館向きの高価本を選び、三千枚のDM同封が一万八千円の費用でできることを各社にアプローチをしている。また、現物をもって図書館を訪問する「ブックキャラバン」も展開している。なお、予約注文はほとんど行わず、実際に刊行された図書のみ注文を受けている。

また、「図書館のためのブックフェア」を開催しており、春は学校の図書館向け、秋は公共図書館向けとしている。

③ 図書館における自然科学書系出版物の需要

昨年と今年のサイエンス、テクノジー分野の売り上げリストを見ながら選定基準について説明があった。シリーズとして実績がある図書や類書がない図書が上位にきている。また、図書館では平日の日中に来館する人をイメージして発注を考えているということも重要である。

④ 自然科学書系出版社へのお願い

以下の二点についてお願いがあった。

・書式は問わないので近刊情報を提供してほしい。

・二〇週間経ったストック・ブックを返品さ

せてほしい。

また、一五〇から二〇〇の出版社と月に一回意見交換をしているので連絡をもらえれば個別に話を聞いている。

最後に質疑応答が行われ会場からいくつかの質問があった。

Q コンピュータ書が売り上げデータにないのはどうしてか。

A. コンピュータは分類コードがちがうためである。

Q 版元が分類コードを決めた方がよいか。

A. とくに決めなくてもよい。なお図書館はCコードを気にしていない。

最後に、今後はTRCの認知度を上げていきたいとの抱負を述べられ、定刻の一七時半に終了した。

(研修委員会 大井隆之)